

# ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

## 解決したい課題・研究開発目標

### 解決したい課題

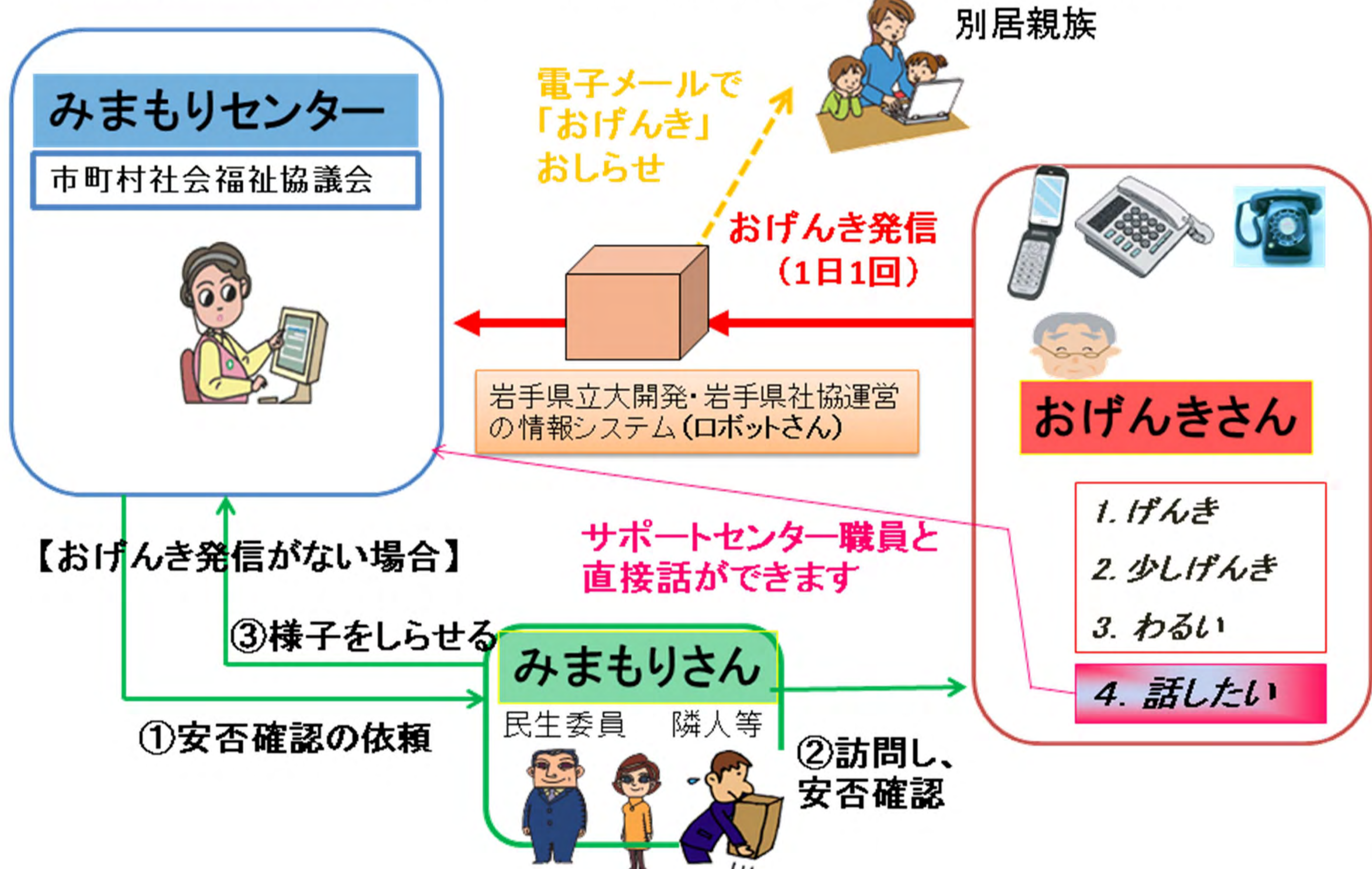
- 高齢者の社会的孤立化の進展
- 支えあう関係の弱まり
- 孤立死や自殺の増加、生活支援ネットワークの欠如（特に岩手県は人口密度が低く、遠慮がちな高齢者が多い）

### プロジェクトの実施方法

#### 全体計画・プロジェクトの展開方法

#### 基盤となる「おげんき発信」の取り組み

第2次「おげんき発信」いわて“おげんき”みまもりシステム



### 研究開発目標

生活支援型のコミュニティづくり

→ 電話を有効活用した高齢者の能動的な発信（「おげんき発信」）を基盤としたICTによる高齢者安否確認・見守りシステムの構築

(参考)



「おげんき発信」する利用者

利用する高齢者「おげんきさん」は毎朝一回、電話を使って自らおげんき発信（相手はロボットさん）

↓

遠慮せずに発信できる

↓

自然と「見守られ上手」に

→ 「4. 話したい」  
24時間365日で電話対応できる体制の整備

### 対象コミュニティ

岩手県盛岡市(桜城地区・松園地区)、滝沢村(当時)、宮古市(川井地区)

地域の特徴に合わせたコミュニティづくり(支援内容・支援提供体制)

- ① 都心型
- ② ニュータウン型
- ③ 郊外スプロール型
- ④ 過疎・高齢化進展型

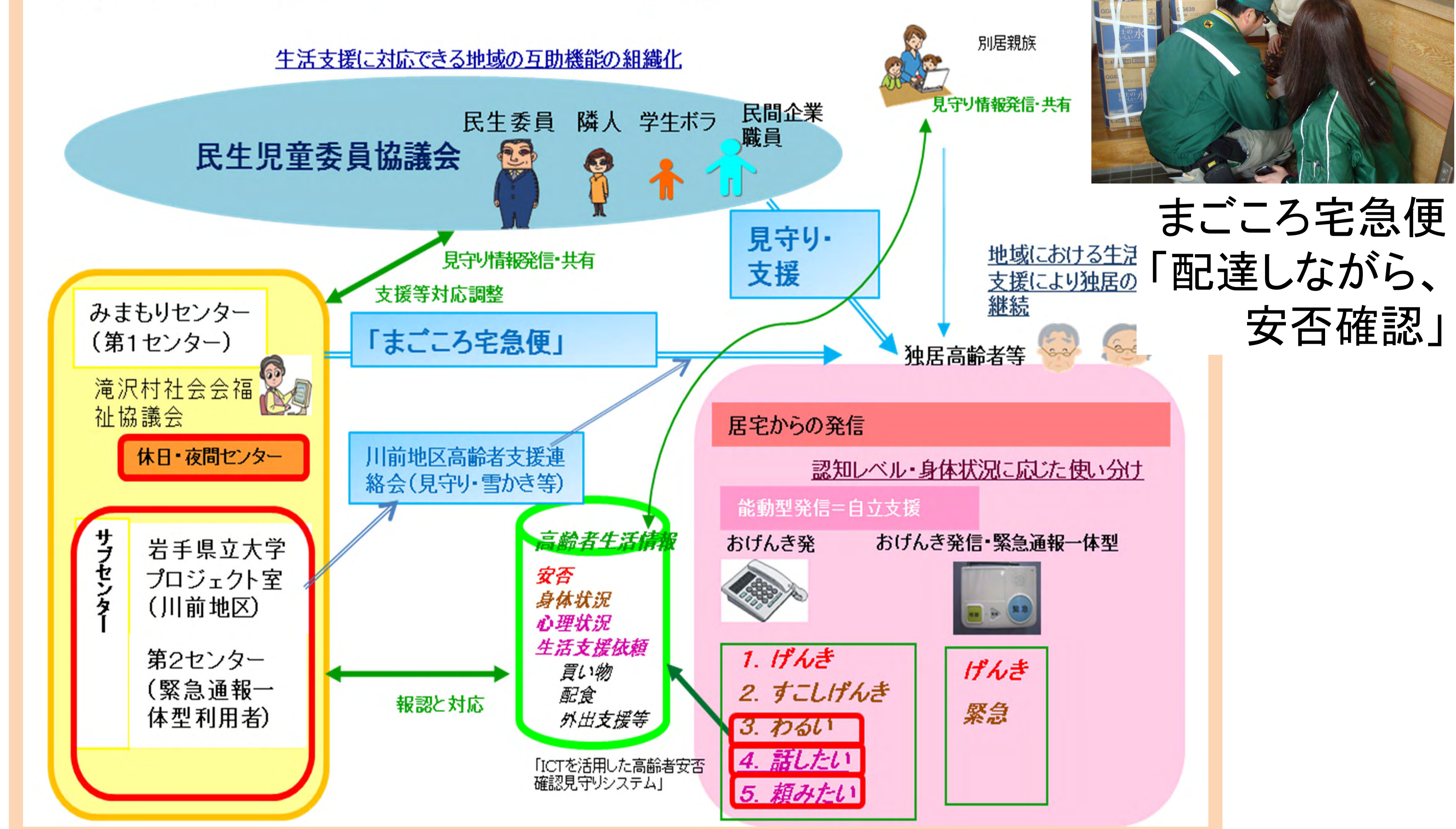


川前地区高齢者支援連絡会「生活支援情報を交換し、助け合う」⇒ 地域での助け合いの組織化

### 研究開発体制

地域住民、社会福祉協議会、大学、自治体、企業 → 企業、NPO、市民まで  
巻き込んだ産学官市民連携

#### 滝沢地区【郊外スプロール型】



まごころ宅急便「配達しながら、安否確認」

## プロジェクトの成果と今後の展望

### プロジェクトの成果(開発した社会技術)

1. 地域資源ごとに見合った生活支援型コミュニティ・見守りセンターの構築
2. ICT活用見守りシステムの連携による身体機能・認知機能に応じた見守り方法の使い分け
3. デバイスの多様化・一元化

○本プロジェクトのすべてのフィールドで取り組みを継続している。

○H26 復興庁「新しい東北」先導モデル事業採択

○H27 クアルコム社助成「釜石市平田地区における重層的見守り先導研究」

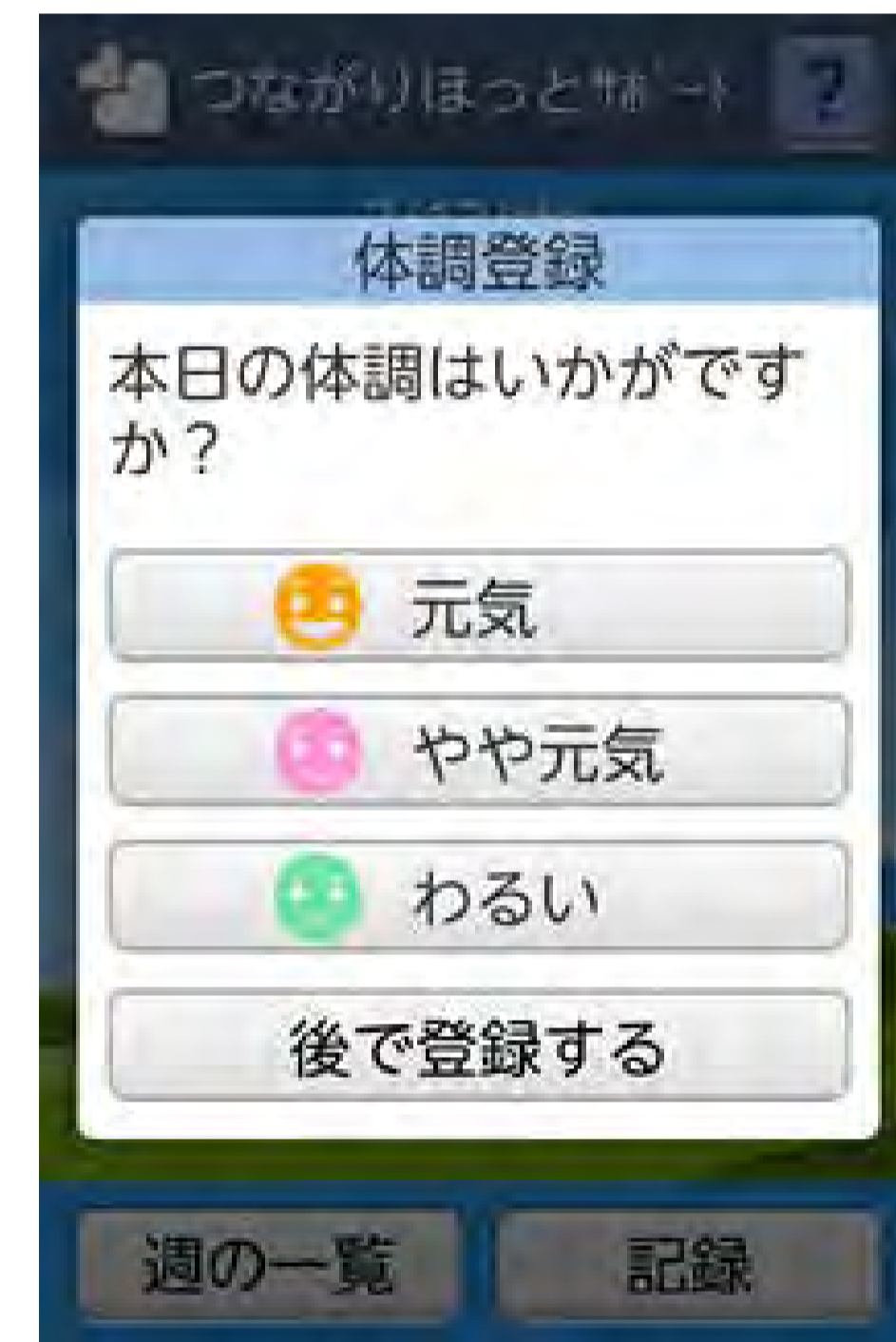
○H26・27 同領域の伊香賀PJ(高知県梶原町)、佐藤PJ(福島県浪江町)で連携地域資源を活用した「おげんき発信」開発

○H27 民間事業者(まごのて)による会員制見守り「おうちでまごのて」

○「おげんき発信」はNTTドコモアプリにより全国普及



小学5年生教科書(平成27年度から5年間)  
東京書籍「社会を変える情報化」

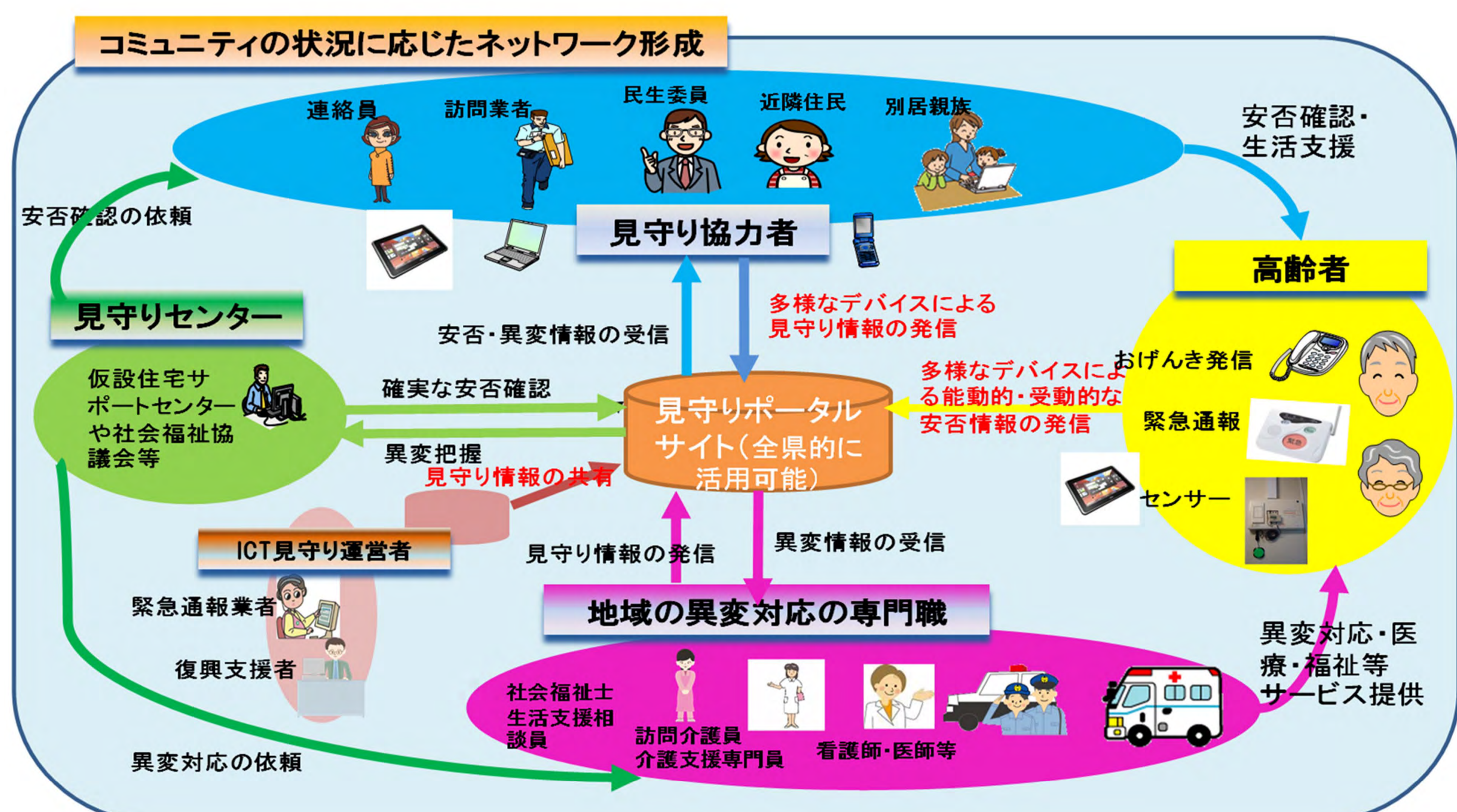


NTTドコモとの共同研究  
「らくらくホン ベーシック3」向けサービス  
「つながりほっとサポート」アプリ  
平成26年3月実装

### 今後の展開・展望

## 地域の包括的なケアシステムと地方創生に寄与

地域ごとに重層的な見守りシステムを運用し、高齢者の心身の状況に応じた見守り方法の選択や、地域の住民・事業者が参加した見守り体制の構築を可能にする。



### プロジェクトWebサイト・お問い合わせ先

岩手県立大学みまもりプロジェクト室、TEL 019-694-3343  
aki@iwate-pu.ac.jp